

「地元自治会と連携して、 事業やコミュニティ活動を進めています」

古くから宇都宮の中心だった二荒山神社。そのおひさまとの商店街の一つ「バンバ通り商店街」は、昭和33年の設立です。

昨年、共同ビルこうつのみや表参道スクエア」が落成し、新しいバンバのイメージが生まれつつあります。

「二荒さんの鳥居も新しくなるし、この広場を中心にどんどん活性化の仕掛けをしていきたいですね」バンバ通り商店街の関口和良会長は、バンバひろば（二荒山神社境内）を見渡しながらおっしゃいます。

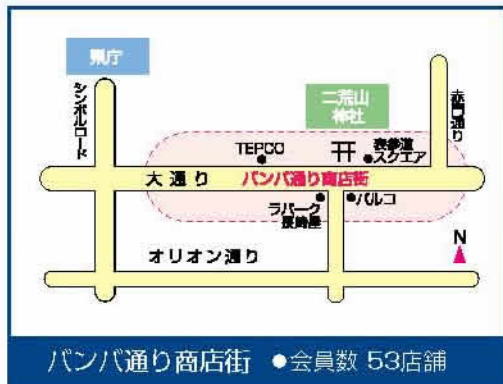
宮っ子に愛され続けてきたバンバ通り。ここに商店街が設立されたのは昭和33年。

道路拡幅工事やバンビル落成などを受けて、随所でイベントが行われたことに刺激を受けた近隣の若者が発起人となって、設立されました。以来、約半世紀にわたって中心市街地活性化に寄与してきました。最近では夏・冬に抽選会を行ったり、お神輿で宮まつり・天王祭に参加しています。

「商店街でお神輿を持っているのは、うちだけです」と言う関口会長は、ちよつと誇りしげです。

最盛期は160を数えた会員数も、現在は約3分の1。この数字が現在の中心商店街とりわけ大通り周辺の商店街の現状を象徴しているようです。

けれども、関口会長は悲観している様子はありません。「今年から中心商店街活性化委員会として、納涼踊りや骨董市を始めました。うちの商店街は、役員も皆若いし、まとまりもよい。活性化に向けて、まとまっ



関口 和良 会長

※このコーナーは隔月で掲載します。

あるんです」と、元気がつぱいです。10月には大鳥居が落成。2年後には西地区再開発ビルも落成します。「販売だけでなく、地域コミュニティや文化、伝統を維持継続していく役割も、私どもにはあります。そのためには、もつとがんばらないと」

宮っ子にとって、バンバは言わば「ハレのまち」。いつまでも元気で若い商店街であって欲しいものです。

